

令和5年度

「運営に関する計画・自己評価  
(最終評価)」

大阪市立大国小学校

令和6年3月

1 学校運営の中期目標

**現状と課題**

「大阪市教育振興基本計画」において、「最重要目標」として、

- (1) 安全・安心な教育の推進
- (2) 未来を切り拓く学力・体力の向上
- (3) 学びを支える教育環境の充実

が掲げられている。この最重要目標に即する現状と課題は下記の通りである。

**(1) 安全・安心な教育の推進**

保護者・地域・関係諸機関と連携を図り、安全安心な教育の実現に努めている。登下校では、教員が定期的に通学路等の安全確保に努めたり、地域の方々が下校時の見守り活動をしていただいたり、PTAの方が登下校の子どもの見守り活動をしていただいたりしている。また、月に1回、校内の安全点検を行い、学校施設の安全整備に努めている。さらに、教職員全員で児童理解を行い、子ども1人ひとりに応じた支援に努めている。令和3年度末の保護者アンケート「お子さまは、楽しく学校に行っている」に対して肯定的な回答は96%、「学校は、子どもの安全確保について、積極的に取り組んでいる」に対して肯定的な回答は96%であった。今年度も90%以上を維持していきたい。また、令和3年度末の児童アンケート「学校はたのしい」に対して肯定的な回答は93%であった。

今後とも、集団育成に取り組みながら、一人ひとりの子どもに寄り添った教育活動を進めていく必要がある。また、個々の家庭との連携を深め、子どもの生活実態の正確な把握に努めていく。問題等が把握されれば、関係諸機関（こども相談センター、浪速警察署、浪速区子育て支援室、こどもサポートネット、民生委員協議会）等と連携しながら改善に努める必要がある。

**(2) 未来を切り拓く学力・体力の向上**

令和3年度の学力経年調査の結果においては、標準化得点が3年100.2、4年95.7、5年93.7、6年98.4であった。

子どもたちの中には、指導者の指示を待つなど、主体的に学習できず、受け身的な傾向がみられる。児童が「学びたい」と思えるように導入を工夫し、互いの考えを交流する対話的な学びを大切にしながら、まとめのときも「なぜ」の疑問を大切にすることにより、主体的、対話的で深い学びを推進していく必要がある。

また、社会的な事象を直接見たり、聞いたり、触れたり、また人と出会い話をしたりすることを通して、自分の生活との関連などを具体的に考えたり、行動したりすることができるように体験的な学習活動も取り入れていく必要がある。

さらに、令和4年1月の児童アンケートで「本を読むのが好き」と答える児童は79%であった。読書をするにより、読み取る力が向上すると考えるので、今後も本を読むことの面白さに気付けるような取り組みを進めるとともに、学校や家庭で読書時間を増やす啓発活動をしていく必要がある。

体力については、令和3年度の「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果では、本校男子では、握力、上体起こし、反復横とび、立ち幅とび、ソフトボール投げで、大阪市男子平

均を上回った一方で、長座体前屈、20mシャトルラン、50m走では下回った。本校女子では、上体起こし、反復横とび、立ち幅とび、ソフトボール投げで、大阪市女子平均を上回った一方で、握力、長座体前屈、20mシャトルラン、50m走では下回った。特に、長座体前屈、20mシャトルラン、50m走では、男女ともに大阪市平均を下回った。今後はより一層、柔軟体操に取り組んだり、持久力や走力向上のための取り組みを進めたりしていく必要がある。

### (3) 学びを支える教育環境の充実

本校では、令和2年度から Pepper を導入し、Pepper をはじめ Scratch や Viscuit など、児童の実態に応じたソフトを活用しながらプログラミング教育を進めている。また、一人一台学習者用端末を活用し、生活科や総合的な学習の時間において、タイピングの学習も進めている。タイピングの学習をする際は、キーに応じた指でタイピングができるように、タイピング入力表を1人に1枚用意している。さらに、一人一台学習者用端末や大型テレビを活用して、自分の考えをパソコン上でまとめたり、発表資料を作成したり、まとめた資料を友だちや学級全員で共有したり、大型テレビを活用して発表したりする取り組みを進めている。

上記のような取り組みを進められるように、一人一台学習者用端末の整備、Wi-Fi 環境の整備、ケーブル関係の整備などにも取り組んでいる。

校内研修会では、外部講師を招聘して研究授業を実施したり、一人一授業を実施してすべての教員が研究授業を実施したりしている。研究授業の際には、管理職をはじめ他の教員が授業を見て、より良い授業になるように意見を交換したり、互いの授業を見合うことにより授業力向上に繋がったりできるようにしている。また、放課後や長期休み中には校内研修会を実施し、教員一人ひとりが学ぶ機会を持ち、指導力向上も図っている。さらに、指導に関する書籍を充実させ、指導に当たって教員が学びやすい環境整備にも努めている。

超過勤務時間が月45時間を超える教職員の割合は、令和3年度では約10%であった。

今後は、子どもがいろいろな手段を使って学びに向かっていくことができるように、学びを支える教育環境の充実をより一層図っていく必要がある。また、働き方改革を進め、超過勤務が月45時間を超える教職員の割合を減少させていく必要がある。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

### 【安全・安心な教育の推進】

#### 全市共通目標

- 令和5年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。
- 令和5年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- 令和5年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

#### 学校の年度目標

- 令和5年度の児童アンケートで「学校は楽しい」と肯定的に回答する子どもの割合を85%以上にする。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

#### 全市共通目標

- 令和5年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を、30%以上にする。
- 令和5年度の小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- 令和5年度の小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- 令和5年度の小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- 令和5年度の小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を60%以上にする。

#### 学校の年度目標

- 令和5年度の児童アンケートにおける「授業はわかりやすい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

### 【学びを支える教育環境の充実】

#### 全市共通目標

- 学習者用端末を取り入れた活動を週1回以上実施する。
- 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を80%以上にする。
- 「ゆとりの日」を月に4回設定・実施する。
- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合を83%以上にする。

#### 学校の年度目標

- 令和5年度の児童アンケートにおける「パソコンやタブレットを使った学習は楽しい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。

### 3 本年度の自己評価結果の総括

#### 【安全・安心な教育の推進】

○令和5年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は82.2%であり、前年度よりも3.8%増加した。

○令和5年度末の校内調査において、不登校児童の割合は2.4%であった。

○令和5年度末の校内調査において、前年度不登校児童の割合は0%であったので、比較することはできない。

○令和5年度の校内アンケートで「学校は楽しい」と肯定的に答える子どもの割合は97.0%となり、前年度よりも3.0%増加した。

○令和5年度の児童アンケートにおいて、「先生や友達に自分の思いや気持ちを話せている」と肯定的に回答する児童の割合は91.0%となり、前年度よりも7.0%増加した。

○令和5年度の児童アンケートにおいて、「友達の嫌がることをしたり、言ったりしないようにしている」と肯定的に回答する児童の割合は92.0%となり、前年度よりも3.0%増加した。

○令和5年度の児童アンケートにおいて、「自分には、よいところがあると思う」と肯定的に回答する児童の割合は96.0%となり、前年度より11.0%増加した。

○令和5年度の児童アンケートにおいて、「自分を大切にできている」と肯定的に回答する児童の割合は95.0%となり、前年度より4.0%増加した。

#### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○令和5年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は、53.0%となり、前年度より19.1%増加した。

○令和5年度の小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較すると、6年-0.12ポイント、5年-0.09ポイントとなり、前年度より向上させることができなかった。4年は+0.15ポイントとなり、前年度より向上させることはできたが、目標を達成することはできなかった。

○令和5年度の小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は81.4%となり、目標を達成することができた。

○令和5年度の小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は86.3%となり、前年度より11.1%増加した。

○令和5年度の小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対し、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合は67.9%となり、目標を達成することができなかった。

○令和5年度の児童アンケートにおける「授業はわかりやすい」に対して、肯定的に回答する児童の割合は95.0%となり、前年度より3.0%増加した。

○小学校学力経年調査において、「授業の中で目標(めあて・ねらい)が示されていた」と肯定的に回答する児童の割合は89.2%となり、前年度より15.6%増加した。

○令和5年度の学校アンケートにおいて、「授業中、自分で考えて勉強したり、友だちの考えを聞いたりできる」と肯定的に回答する児童の割合は92.0%となり、前年度よりも8.0%増加した。

○漢字検定の合格率は65%となり、目標を達成することができた。

○令和5年度の児童アンケートにおいて、「新しい学年になって、自分の中でがんばったことがある」と肯定的に回答する児童の割合は95.0%となり、前年度よりも4.0%増加した。

○令和5年度の児童アンケートにおいて、「英語学習がたのしい」と肯定的に回答する児童の割合は90.0%となり、前年度よりも7.0%増加した。

### 【学びを支える教育環境の充実】

○学習者用端末を活用した学習を週1回実施することができた。

○年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合は96.0%となり、目標を達成することができた。

○「ゆとりの日」を月に4回設定・実施することができた。

○「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合は、95.0%となり目標を達成することができた。

○令和5年度の児童アンケートにおける「パソコンやタブレットを使った学習は楽しい」に対して、肯定的に回答する児童の割合は、92.0%となり、前年度より5.0%増加した。

○令和5年度児童アンケートにおいて、「プログラミングは楽しい」と肯定的に回答する児童の割合は93%となり、前年度よりも7.0%増加した。

○令和5年度小学校学力経年調査において、「デジタルドリルを使った学習は楽しいですか」と肯定的に回答する児童の割合は82.9%となり、前年度よりも23.3%増加した。

大阪市立 大田小学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【安全・安心な教育の推進】</b></p> <p><b>全市共通目標</b></p> <p>○令和5年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。</p> <p>○令和5年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。</p> <p>○令和5年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。</p> <p><b>学校の年度目標</b></p> <p>○令和5年度の校内アンケートで「学校は楽しい」と肯定的に答える子どもの割合を85%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の達成状況を測る指標	達成状況
<p><b>取組内容①【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</b></p> <p>いじめのない安全・安心で楽しい学校生活が送れるようにする。</p> <hr/> <p><b>指標</b></p> <p>○いじめに発展する前の段階での早期発見、早期解消を図るために、児童アンケートを学期に1回実施し、実態の把握に努める。</p> <p>○いじめと認知した場合、事案のすべての解決に取り組む。人権教育会議を月1回程度実施し、情報と手立て、今後の方向性を全教職員で共有する。</p>	B
<p><b>取組内容②【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</b></p> <p>児童一人ひとりの個性を大切にし、より良い仲間づくりに取り組む。</p> <hr/> <p><b>指標</b></p> <p>○令和5年度の児童アンケートにおいて、「先生や友達に自分の思いや気持ちを話せている」と肯定的に回答する児童の割合を、80%以上にする。</p> <p>○令和5年度の児童アンケートにおいて、「友だちの嫌がることをしたり、言ったりしていなようにしている」と肯定的に回答する児童の割合を、85%以上にする。</p>	B
<p><b>取組内容③【施策2 道徳心・社会性の育成】</b></p> <p>人権教育を推進し、自尊心や自己肯定感向上に取り組む。</p> <hr/> <p><b>指標</b></p> <p>○「褒めて、認めて、励ます」を実践しながら、児童の自尊心や自己肯定感向上に取り組む。</p>	A

<p>○「かわ」等体験的な学習に系統的に取り組む。</p> <p>○令和5年度の児童アンケートにおいて、「自分には、よいところがあると思う」と肯定的に回答する児童の割合を、85%以上にする。</p>	
<p><b>取組内容④【施策2 道徳心・社会性の育成】</b></p> <p>性・生教育に取り組み、豊かな心や、互いのちがいを認め合える心を育む。</p> <hr/> <p><b>指標</b></p> <p>○性・生教育の年間カリキュラムを作成し、全学年で系統立てて取り組む。</p> <p>○令和5年度の児童アンケートにおいて、「自分を大切にできている」と肯定的に回答する児童の割合を、88%以上にする。</p>	B
<p><b>年度目標の達成状況や取組の結果と分析</b></p>	
<p>○ 令和5年度の児童アンケートにおいて、「学校は楽しい」と肯定的に回答した児童の割合は97%であり、学校の年度目標を達成した。</p> <p>① いじめに関する児童アンケートを学期に1回実施した。その結果、児童の悩みや今まで話せなかったことを聞くことができ、いじめにつながる事案の早期発見・解決につながった。また、人権教育会議で、把握したことについての実態報告を行ったり手立てを話し合ったりするなど、今後の方向性を全教職員で共有することができた。今後も継続していく。</p> <p>② 令和5年度の児童アンケートにおいて、「先生や友達に自分の思いや気持ちを話せている」と肯定的に回答した児童の割合は91%、「友だちの嫌がることをしたり、言ったりしていなようにしている」と肯定的に回答した児童の割合は92%であり、目標を達成した。年度当初に学級目標を立て、学級目標を達成するための仲間づくりに日々取り組んだことや、年度当初から児童と信頼関係を築き、話しやすい雰囲気づくりに努めてきたことが良かった。</p> <p>③ 令和5年度の児童アンケートにおいて、「自分には、よいところがあると思う」と肯定的に回答した児童の割合は96%であり、目標を達成した。「かわ」等体験的な学習についても計画的に取り組むことができた。また、日々の支援によって、できることが少しずつ増えたことで、自信をもつことにつながり、学習に対する意欲も向上している。</p> <p>④ 令和5年度の児童アンケートにおいて、「自分を大切にできている」と肯定的に回答した児童の割合は95%であり、目標を達成した。性・生教育においては、年間カリキュラムに沿って、各学年で系統立てて取り組んでいるが、学年間で差があり、実施の時期が遅れ気味になる傾向がある。</p>	
<p><b>改善点</b></p>	
<p>①②③学校と家庭の連携をできる限り図っているが、様々な家庭があり、状態がなかなか改善しない家庭もある。児童の思いや保護者の願いを大切にしながら、学校全体で必要な時は外部機関とも連携を図るようにし、児童の支援を行っていく。</p> <p>① 早期発見を目指し、事後の対処でなく早期解決できるように努める。</p> <p>③ 1年間で改善傾向になるため、一時で終わらせないように継続していく。</p> <p>④ どの学年も年間を通じて行えるように実施時期を決め、指導計画に沿って適切な時期に指導をしていく必要がある。</p>	

大阪市立 大国小学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <p><b>全市共通目標</b></p> <p>○令和5年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を、30%以上にする。</p> <p>○令和5年度の小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。</p> <p>○令和5年度の小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。</p> <p>○令和5年度の小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。</p> <p>○令和5年度の小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を60%以上にする。</p> <p><b>学校の年度目標</b></p> <p>○令和5年度の児童アンケートにおける「授業はわかりやすい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の達成状況を測る指標	達成状況
<p><b>取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】</b></p> <p>主体的、対話的で深い学びの授業に取り組む。</p> <hr/> <p><b>指標</b></p> <p>○小学校学力経年調査において、「授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたり、自分で目標を立てたりしていたと思いますか」と肯定的に回答する児童の割合を、65%以上にする。</p> <p>○令和5年度の児童アンケートにおいて、「授業中、自分で考えて勉強したり、友だちの考えを聞いたりできている」と肯定的に回答する児童の割合を、75%以上にする。</p> <p>○芸術鑑賞会、作品展・学習発表会(隔年)を年1回実施する。</p>	B
<p><b>取組内容②【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】</b></p> <p>「できた」という経験を積み重ね、自己肯定感を高める。</p>	

<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○漢字検定の合格率を 60%以上にする。</li> <li>○国語科・算数科の学習を通して基礎基本の学習の定着を図る。</li> <li>○令和 5 年度の児童アンケートにおいて、「新しい学年になって、自分の中でがんばったことがある」と肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。</li> <li>○一人ひとりの学力を把握し、個に応じた指導を行う。</li> </ul>	B
<p><b>取組内容③【施策 6 国際社会において生き抜く力の育成】</b> 子どもたちが楽しく英語を学び、コミュニケーションしようとする力を育む。</p>	
<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○全学年で週 2 回 1 5 分の英語モジュール学習に取り組む。</li> <li>○令和 5 年度の児童アンケートにおいて、「英語学習がたのしい」と肯定的に回答する児童の割合を、80%以上にする。</li> </ul>	B
<p><b>取組内容④【施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成】</b> 健康や体力に対する意識を向上させ、じょうぶな体を育てる。</p>	
<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○健康や姿勢について、日常的な指導や学期に 1 回保健指導を行う。</li> <li>○なわとび等の持久力を高める取り組みに、学校全体で取り組む。</li> </ul>	B
<p><b>年度目標の達成状況や取組の結果と分析</b></p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 令和 5 年度の児童アンケートにおいて、「授業はわかりやすい」と肯定的に回答した児童の割合は 9 5 %であり、学校の年度目標を達成した。</li> <li>① 令和 5 年度の児童アンケートにおいて、「授業中、自分で考えて勉強したり、友だちの考えを聞いたりできています」と肯定的に回答した児童の割合は 9 2 %であり、目標を達成した。国語科の学習では、初発の感想を書きそこから今日のめあてを決めるなど、主体的・対話的で深い学びのある授業を意識しながら取り組むことができた。</li> <li>② 令和 5 年度の児童アンケートにおいて、「新しい学年になって、自分の中でがんばったことがある」と肯定的に回答した児童の割合は 9 5 %であり、目標を達成した。国語科や算数科を中心に、授業者を支援者が連携し、一人ひとりの学習を把握し個に応じた指導を行うことができた。</li> <li>③ 令和 5 年度の児童アンケートにおいて、「英語学習はたのしい」と肯定的に回答した児童の割合は 9 0 %であり、目標を達成した。週 2 回の英語モジュールを計画的に行うことができた。また、保健室前掲示板や身体測定時の保健指導によって、児童の健康への意識が高まった。</li> </ul>	
<p><b>改善点</b></p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>① 子ども自身が目標を定め自分を表現できるような活動を考え実践する。</li> <li>② 基礎基本の定着を図るために、ワークシート等を使い教材研究に努める。また、一人学び→グループ→全体交流の時間を確保する。</li> <li>③ 英語学習の苦手意識を軽減するために、取り組みなどのルーティンを設定し、「楽しい」「発音できた」「話してみたい」といった肯定的な思いがもてるような指導をする。</li> <li>④ 子どもたち自らが、健康で丈夫な身体を造るために日常生活で何が大切かを知り、よりよい生活を送ることができるような指導、支援をする。</li> </ul>	

大阪市立 大國小学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【学びを支える教育環境の充実】</b></p> <p><b>全市共通目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習者用端末を取り入れた活動を週1回以上実施する。</li> <li>○年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を80%以上にする。</li> <li>○「ゆとりの日」を月に4回設定・実施する。</li> </ul> <p>「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合を83%以上にする。</p> <p><b>学校の年度目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○令和5年度の児童アンケートにおける「パソコンやタブレットを使った学習は楽しい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。</li> </ul>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の達成状況を測る指標	達成状況
<p><b>取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】</b></p> <p>全学年において、プログラミング教育に取り組む。</p>	B
<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○プログラミング教育の年間カリキュラムに基づき、プログラミング教育に全学年で取り組む。</li> <li>○令和5年度の児童アンケートにおいて、「プログラミング学習は楽しい」と肯定的に回答する児童の割合を、83%以上にする。</li> </ul>	
<p><b>取組内容②【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】</b></p> <p>全学年において、ICTを活用した学習に取り組む。</p>	B
<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○どの学年でも、デジタル教科書や学習動画などのICTを活用した学習に取り組む。</li> <li>○小学校学力経年調査において、「デジタルドリルを使った学習は楽しいですか」と肯定的に回答する児童の割合を、70%以上にする。</li> </ul>	
<p><b>取組内容③【施策8 施策を実現するための仕組みの推進】</b></p> <p>教職員が心身ともに健康に働くことができる職場環境づくりに取り組む</p>	B

<p><b>指標</b></p> <p>○校務支援システムを活用し、教職員間の情報共有を行うことで、校務に費やすことのできる時間を創出する。</p> <p>○学期に1回産業医先生の指導のもと、安全衛生委員会を開催し、教職員の健康を管理する。</p>	
<p><b>年度目標の達成状況や取組の結果と分析</b></p>	
<p>○ 令和5年度の児童アンケートにおける「パソコンやタブレットを使った学習は楽しい」に対して、肯定的に回答した児童の割合は92%であり、学校の年度目標を達成した。</p> <p>① プログラミング教育の年間カリキュラムに基づき、全学年でビスケットやコーディーロッキーを活用したプログラミング教育に取り組むことができた。ICT支援員さんと協力して学習内容を決めたり指導したりすることで、子ども達が意欲的に取り組むことができた。 令和5年度の小学校経年調査における「デジタルドリルを使った学習は楽しいですか」に対して、肯定的に回答した児童の割合は83%であり、学校の年度目標を達成した。</p> <p>② 毎日デジタル教科書や学習動画などのICTを活用した学習に取り組んだ。デジタルドリルの活用方法をICT支援員さんに教えてもらいながら朝学習や宿題に活用し楽しく学習に取り組むことができた。</p> <p>③ 教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合が92%になり教員の退勤時間が早くなってきている。連絡掲示板など活用して職員集合を減らすことで、校務に費やす時間が増え働き方改革が少しずつできている。</p>	
<p><b>改善点</b></p>	
<p>① 低学年のプログラミング教材がビスケットしかないため、来年度の予算で低学年に適したプログラミング教材を購入し低学年から長期的な目で論理的思考力の素地を育てられる環境をさらに整える。</p> <p>② 今後もICT支援員さんとの協力を深め、さらに効果的な使用方法や使用機会を考え、子どもの個別最適化した学習につなげたい。</p> <p>③ 遅刻・欠席連絡がない児童が多く、連絡をとるための時間が結構取られてしまう。ミマモルメの登録を入学時に必須とし、遅刻・欠席は必ず連絡してもらうように説明することが必要。校務支援システムをさらに活用し働き方改革を行う。</p>	